



磯辺九条の会 会報

会員配布 編集・発行 磯辺九条の会事務局 連絡先 TEL&FAX 279-7538 渡辺

6/23 「いのちの山河 日本の青空II」 上映会 611名鑑賞



美浜文化ホールにて上映=6/23

上映会には、一回目21人、二回目240人、三回目150人、合計611人が参加しました。

「日本の青空」で「日本国憲法」の成立過程を劇映画で作った監督（大澤豊）の第2作。憲法第25条をテコに“豪雪・多病・貧困”を抱えていた岩手県の山間の寒村、「沢内村」の50年前の話。豪雪で閉じ込められた村に冬季バスが開通する。老人と乳児の医療費無料化をこの国で初めて実現する。翌年、乳児死亡率“ゼロ”の全国でも初の記録を生み出す。

。「村をよくする医者になれ」の父親の遺言を、帰郷した息子（高校教師↓教育長↓村長）が村政の基本にすえて、「生命行政」に奮闘する物語。

「沢内村地域包括医療実施計画の目的と目標」（62年計画策定）の中から、〈目標〉①すこやかか生まれる②すこやかか育つ③すこやかに老いる、を紹介しておきたい。

印象的な場面として、冒頭と最後の「雪」（豪雪）のシーン。豪雪に脚を取られながら中年の夫婦が帰郷する発端。最後、深い雪の中、長い会葬者の列が続いている。村長は59歳で1月下旬に死去。

最後に「製作協力者一覧」のクレジット・タイトルが延々と続く中（1100を超える）に「美浜九条連絡会」も。（五丁目・M）

アンケートから

★券を頂いたので見に来ました。券をくれてありがとうございますと言いたいです。良かったです。

私も岩手県和賀郡の出身の者です。昔を思い出しました。泣けて、泣けて来ました。今の時代の人の中に深沢晟雄村長の様な方がいるでしょうか。又、皆で力を合わせれば改善できる様な気がします。村長のような方が現れる事を願って、本日はありがとうございます。

（60代女性）

★私は岩手県出身です。このお話はよく聞いて育ちました。

同県人として素晴らしい先人がいらっしやっしたもの誇りに思い、この方の努力のたまもので、今の医療制度が出来たことを誇りに思います。

（80代女性）

★大地震で家が傾き住めなくなったので、毎日家中の片付けをしている私を知人が心配して、この映画に誘って下さいました。久しぶりに外の方に気を向け、この映画を見せて頂き感動の連続でした。

人間に一番大切な「命」を大事に思い、村民の為にこんなに頑張った下さった人がいらしたと思うと、立派な深沢晟雄さんという人は一生忘れられない人です。感動をありがとうございます。

（60代女性）

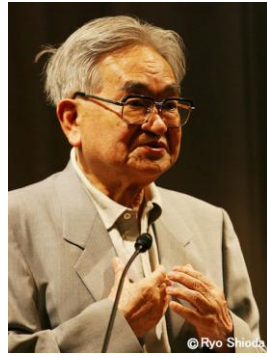
★沢内村までインディーズのスタッフの方々とツアーがあり、一昨年行ってきました。

水芭蕉やカタクリ、サクラが咲く5月の沢内はすばらしい所でした。25条の思いそのままに、今も息づく村でした。お寺でのお話もすばらしいものでした。

（70代女性）

発足7周年記念 「九条の会講演会」 に参加して

発足7周年記念「九条の会講演会」が、6月4日(土)日比谷公会堂(開会13時30分)で開催され、呼びかけ人の四氏の講演があった。磯辺から世話人の2人の参加。



鶴見俊輔氏

「ともに生きる仲間」呼びかけ人の故人の作品から、井上ひさし「日本語教室」は、言語の理論が消化され小説「吉里吉里人」と通底しその裏づけの役を果たしています。小田実の「オモニ太平記」には感心しました。小田には智慧があ

る。それが残されたメンバーの中で生きることを見ます。加藤周一の「日本文学序説」、日本文学を通して日本思想史を書きました。刺激を受けます。故人と生き残りの呼びかけ人から、新しい世代へ声を届けたいです。

講演はメッセージとは異なる。この小文ではモの印象的な部分を紹介する。原子爆弾をヒロシマ(出張中)、ナガサキと二度浴びた人の話。「もてあそばれたような気がする」と。実際、二つ目のナガサキは、その効果を知らなかった…。いいだももの小説「アメリカの英雄」で原爆を落とした人物、その後、精神病院へ。逆説的に彼こそ被害者だった。ルーズベルトの急逝で大統領に就いたトルーマンは原爆のことを知らず、短期間にヒロシマ、ナガサキに原子爆弾を落とす命令を下した。…(後略)



澤地久枝氏

「世直しのとき」

3・11、自然の大きさと人間存在の小ささを思いました。逃れがたい。続けて原発の事故。地震列島の日本人の生活。その運命共同体で、

国の姿を根本から変える方向へ舵を切る原点が日本国憲法だと思ふのです。戦争放棄の第九条と生存権の第二十五条を砦として世の中を変えてゆきたい。まず、全原発廃止の方向を目標とす意思表示からですね。

講演の中でTVのドキュメンタリー(チェルノブイリ)を見て、人間は核が暴走したとき止められないことが分か

った。今ある電力でまかなえる範囲の在り様でいいではないか。憲法で原発を持たない国がある(オーストリア)。世界的に新しい人類の生き方を模索しよう。核エネルギー依存を変えよう。その前に日本が原発から脱却したい。

人間らしい生活の中で幸福とは? ペシヤワール会の中村哲医師は、家族がそろっていてご飯がちゃんと食べられることとアフガニスタンでの活動から述べられています。

10分休憩の後、「音楽演奏」があった。(ヴァイオリン) 松野迅氏。(ピアノ) 風呂本佳苗。曲目は「すみれ」(瀬越憲作曲)「チャルダッシュ」(ハンガリーの民族舞曲)「鳥の歌」(カタルーニャ民謡)。



奥平康弘氏

「変革をめざす全市民的議論を、いま」

トンデモナイ事態になりましたが、考えようでは国家社会の変革の契機です。もつとも、超党派「新憲法制定議員連盟」の大会で、スローガンに「大規模自然災害にも即応できる憲法をつくろう」が付け加えられ、「憲法を新しくする絶好の機会だ!」と挨拶する政治家もいたようです。

“被害”は過去の政治経済の誤算に由来。過去をきちんと清算しつつ、世界に向けて日本いかにあるべきか議論を起こそう。日本国憲法は、全市民が自覚的に議論に参加し、応分の役割分担を担うよう要請しています。

講演では、これまで自衛権・自衛隊をめぐる政府の見



発足7周年記念の九条の会講演会
= 4日、東京・日比谷公会堂

解・解釈などの変遷が語られたが、込み入った憲法学者の話であった。運用の過程で国家権力は違った憲法解釈をしてきた。

自衛権はあるんだ。自衛のための必要最小限の実力

「戦力」とすると教科書検定ではダメは、戦力ではない。私たちの「九条」からは許されないものだが。…大江健三郎さんの沖縄戦の集団自決に関わる訴訟、大江氏側が勝ったわけですが、小さな事件としてメディアでは扱われていたが、大きな政治訴訟だったのです…(略)



大江健三郎氏

「決意した、ということ」と

新制中学生の時、先生が教育基本法を読みあげる…この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。——よし！と私がいったので、みんな笑いで自分も笑ったものです。

：加藤周一さんから、憲法九条の会を呼びかけないか、と伝言があった時も、——よし！と…

私も居なくなつた時、思いだしてもらおうきつかけをひとつ、と考えて憲法前文②の一節を声に出しておきたい。「：平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し

た」、その決意した、というところ。

講演。母が言いました、後家さんと大人たちはマジメに話はしない。あんたは今読んでいる憲法の言葉で話せと。決意した、信頼する、希求する…ボールを希求する、私が決意しても、他の生徒が殴ってくる、いじめられたりしました。54年ビキニの水爆実験で第五福竜丸が死の灰を浴び55年1月、日米合意文書。賠償金で濃縮ウランが提供され、国家間の問題としない。55年平和利用をうたつて原子力基本法、同年原水禁世界大会。基本法の行きつくところ、福島原発です。

最初から日本の原子力政策にからんできた中曽根氏のインタビュ記事が最近ありましたが、原子力政策は維持し続けねばならないと。憲法制定時の立法

事実を想起し、決意を確かめたいですね。

最後に、小森陽一事務局長から、11月19日(土)「全国交流集会」開催の提起があった。この国の方向性の確認のためにも、全国の九条の会が一堂に会して交流したいと。(世話人M)

「第12回会員交流会」
7/2 DVDの上映を行いました
NHKスペシャル
解かれた封印
～*軍カメラマンが見たNAGASAKI～

第12回会員交流会を、7月2日(土)午後3時15分から5時まで、真砂Cで行いました。

参加者は少なかつたのですが、DVDの貴重な映像上映があり参加者にそれぞれの思いを投げかけた一時でした。



火葬場にいた2人の男が弟を背中から舐め、そと炎の中に置いた

挨拶

世話人代表 渡辺さん
*改憲の動きについて、前号の「会報」22号を元に話されました。

*10月1日の集いに力を入れたいと。チケットその他で。(第5回美浜区平和と文化のつどい)

DVD上映(NHK)

スペシャル) 解かれた封印 | 米軍カメラマンが見たNAGASAKI(NHK福岡・2008年制作)

従軍カメラマンがいた。彼は85歳で、奇しくもナガサキに原爆が投下された8月9日に死去。彼は佐世保に上陸し、ナガサキの爆心地に向かう。街は破壊され、三菱製鋼所、鎮西学院、瓦礫



の中の飛行場などグラウンド・ゼロだった。現実は想像を超えていた。軍の許可なく人、子ども等の写真を撮った。自分のカメラで撮影された30枚のその写真は軍隊で使っていたトランクに封印されていた。

帰国後、ナガサキの地獄さながらの光景に苦しむ。眠れない。アメリカの決断は正しかったのか…。退役後、結婚。二人の子ども。戦後49年にアメリカ情報局勤務となり、ホワイトハウスの専属カメラマンとなる。50年ト

67歳の時、トランクを開けた。43年間封印していた、写真を見たくなかったのだ。写真は、爆音で耳が聴こえなくなつた女の子、臨時救護所の部屋に入ると、「殺してくれ」と被爆者、火葬場で少年が死んだ弟を背負っている写真…。台所で写真を並べていて、妻はショックを受け離婚に至る。ホテル勤務の息



ルーマン大統領に尋ねる。後悔しましたか？前大統領（ルーズベルト。急逝）から単に引き継いだだけだ。（顔を真っ赤にして答えた）

子は真相を知りたいと。軍隊に志願したのは、日本人への憎しみからで軍では写真班に配属された。89年修道院で反核運動の彫像を見て、ナガサキの記憶を封印できない、真実を伝えねばと。出版社全て断わられる、スミソニアンでの展示もダメ。嫌がらせの手紙などもくる。身体に異変を感じて、放射能ではと米政府に補償を求めたが、却下される。

70代に日本で体験を語り始める。長崎で原爆写真展を開く。父は笑顔の長崎の子どもたちの写真を撮りたいと言っていた。その願いを息子が写真展で来日の時、長崎で引き継いでいる。

毎年5月退役軍人のパレードがワシントンである。多くが原爆投下の正当性を信じている中で、この軍の専属カメラマンの生はいろんなことを私たちに投げかける。
(世話人M)

第5回美浜区平和と文化のつどい

- 日時： 10月1日（土）
13時30分開場 14時 開演
- 場所： 美浜文化ホール 2F メインホール

参加券 1,000円
高校生以下無料



心の復興を

<プロフィール> 脚本家、演出家。
「父の詫び状」、大河ドラマ「独眼竜政宗」、「八代將軍吉宗」、「葵徳川三代」の脚本など多数。
「憲法はまだか」で放送文化基金賞優秀賞。日本演劇協会理事。「坊っちゃん劇場」名誉館長。

講演 ジェームス三木さん

うた声 全国で活躍する

磯辺女声コーラス

指揮 清水雅彦
ピアノ 福崎由香

- ・ 雨ニモマケズ
- ・ TOKYO 物語より「リンゴの唄」etc.
- ・ 夕焼け ほか

◆チケット取り扱い（電話・FAX・メール予約可）

渡辺 Tel/Fax 043-279-7538

美浜9条連絡会ブログでメール予約可 <http://mihama9jo.sblo.jp/>

主催 美浜区平和と文化のつどい連絡会 後援 千葉市教育委員会・朝日新聞千葉総局